

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

予測困難な時代に一人ひとりが未来の創り手となるために

- 1 生徒の豊かな人間交流を促し、広い視野を持つ、健全な社会人、国際人としての成長を図る。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

## 2 中期的目標

## ア 基本方針

卒業時に生徒が身に付けていること

- ・自ら考え、行動する力
- ・人を思いやる気持ち
- ・多様な人と協働できる力
- ・基礎、基本を土台とした、思考力、判断力、表現力
- ・挨拶の習慣
- ・読書習慣

そのために

## イ 確かな学力の育成

- (1) カリキュラム委員会においてカリキュラム・マネジメントを確立し、新学習指導要領などで求められる力を育てる。

ア 各教科等の内容を相互の関係でとらえ、3年間で生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるように総合学科としてのカリキュラムを実施する。また新課程に向け新カリキュラムを検討する。

イ 「何が身についたか」の評価方法を検討する。

- (2) 授業改善に取り組む。主体的・対話的で深い学びを通し、思考力・判断力・表現力を高めるようにする。

ア わかりやすい授業を行う。

イ 生徒が考える授業を行う。(思考力、判断力)

ウ 生徒同士、教員とのコミュニケーションを大切にする。(表現力)

エ 基礎的、基本的な知識及び技能を確実に身につけさせる。

オ 話し合い、調べ学習、発表、実験、実習、地域貢献等を通して、考える力・まとめる力・発表する力等を育成する。

そのために

カ 公開授業、研究授業、授業見学、研修、授業アンケートなどを活用した授業改善に組織的に取り組む。

キ 生徒一人ひとりの能力や特性(ニーズ)に応じた個別学習や協同学習を展開し、より意欲的で深い学びを実現するため、授業力アップチームが中心となり、普通教室や各種特別教室におけるICT機器を活用した授業の研究を進める。

ク 生徒自身が自ら学び、授業以外でも学習できるように取り組む。

授業アンケートにおける「興味関心が持てた」「知識技能が身についた」の第一評価を15%UPさせ2021年度に50%以上(H30年度35%,38%)にする。

学校教育自己診断(生徒向け)での「教え方に工夫をしている先生が多い」の第一評価を15%UPさせ2021年度に36%(H30年度21%)にする。

備考 評価の基準

第一評価	よくあてはまる
第二評価	ややあてはまる
第三評価	あまりあてはまらない
第四評価	全くあてはまらない

## ウ 生徒の「やる気」スイッチをオンにする

- (1) 効力感、達成感の育成

ア 教科や教科横断的な行事などの中で自己表現をしたり、認められたりする場を広げる。

イ 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援するとともに部活動参加率70%以上をめざす(H30 68%)。

ウ 小学校、中学校、大学との連携を深める。また地域ボランティアなどの貢献活動を継続する。

エ 生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や道徳的な態度を育む取組みを充実させる。

- (2) キャリア教育の推進、キャリアアンカーの形成

ア 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を通じたキャリア教育を充実させる。

イ 日々の学習、フィールドでの発表や研修などを通して、自分の進路や生き方を考えられるようにする。

- (3) 進路実現の支援: 4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率を90%以上にする。就職希望者の就職率を100%にする。

- (4) 資格取得の推進

学校教育自己診断(生徒向け)で「授業で発表する機会がある」の第一評価を、2021年度までに50%(H30年度38%)にする。

「ガイダンスは分かりやすい」の第一評価を、2021年度までに50%(H30年度41%)にする。

「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価を、2021年度において50%以上を維持(H30年度53%)する。

## エ 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 生徒の規範意識を醸成する

ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

イ 生徒が自分で判断して自らの行動を律することができるようにする。

- (2) 生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 課題のある生徒についてSCと緊密に連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明示していく。

- (3) 保護者連携・地域連携を一層推進していく。

- (4) 働き方改革

## 府立門真なみはや高等学校

学校教育自己診断（保護者・生徒向け）での「何かあれば相談できる先生がいる」項目の第一評価を、15%UPさせ2021年度までに保護者向け41%（H30年度26%）、生徒向け49%（H30年度34%）にする。

## オ グローバル人材の育成

## (1) 日本語指導の必要な帰国生徒・外国人生徒の指導

ア 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を日常的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。

イ 日本人生徒との交流の促進

## (2) 国際交流の推進

ア 生徒の短期語学研修の実施（英語圏、中国語圏、韓国語圏）

イ 外国の学校との相互交流の実施

語学研修の回数を年1回行い、参加者を10人程度（H30年度12人）維持する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析					学校運営協議会からの意見				
下の表の数字は生徒回答の肯定的回答率%（第一評価+第二評価）					第1回 6月19日 15時～17時				
生徒たちは本校に来る意義を感じている					<審議事項>				
	R1	H30	H29	H28	学校経営計画(中期的目標)について				
学校に行くことに意義を感じている	80	80	78	80	確かな学力の育成について				
門真なみはや高校に入学してよかったと感じている	88	84	86	86	Q:新カリキュラムでは、何がどう変わるのか?どう変えていくのか?				
この学校は自分にあったフィールドや科目がある	86	85	84	81	A:「主体的・対話的で深い学び」を進めることになる。令和4年度までに、それが実現できるよう授業改善に取り組む。また、入試制度の変更に対応できるように科目の配置を研究し検討している。				
授業を受ける環境が整っている					Q:読書習慣を身につける、とあるが具体の工夫は?				
	R1	H30	H29	H28	A:授業で取り組みを進めてもらっている科目もあるが、朝の読書時間を設定するなど、枠組みを作ることを探していきたい。				
生徒が静かに授業を受ける環境がある	81	79	80	78	Q:ICTの活用は具体的にどのように実践しているのか?				
教室はきれいで、授業を受ける態勢ができています	80	85	83	79	A:英語フィールドなどプレゼンで活用している。数学のアプリを使って関数のグラフを視覚的に実感させるなどの試みも始めている。				
授業における教え方の工夫において改善の余地がある					意見:ICT=効率の良さを求める、だけに偏ると、ノートテイキングの力がつかないという弊害もあるので注意が必要				
生徒が自分の考えをまとめ、発表する機会は増えてきている					生徒のやる気スイッチをオンにする				
補習、講習は十分に行われている					Q:部活動の参加率を上げる、について、府の部活動ガイドラインを守るといことは部活動をするな、という流れだと感じるという声もあるが、ガイドラインを守りながら部活動をすすめていくことは可能か?				
	R1	H30	H29	H28	A:過当たりの休みを設定したり、考査前の活動休止期間を設定するなど長期的にみれば、休みを確保できている。				
教え方に工夫をしている先生が多い	77	76	78	72	安全で安心な魅力ある学校づくり				
授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある	88	84	82	78	Q:困り感のある生徒は、多くないように思うがどうか?				
授業の補習や進学講習は十分用意されている	88	88	90	86	A:心身の不調や人間関係の悩みを抱える生徒は少なくない。学校生活支援カードの活用や必要に応じて外部機関と連携するなどして対応している。				
様々な指導について、まだ生徒に対する説明が足りない面がある					第2回 10月9日 14時～16時30分				
	R1	H30	H29	H28	<授業見学の感想>				
学校の制服・遅刻・頭髪指導は適切だと感じる	75	71	71	79	2年生フィールド授業の見学				
学校生活について先生の指導は納得できる	76	74	73	76	・生徒はみな前向きに取り組んでいた。いろんなテーマで教員も授業に取り組んでいた。考査による評価はなじまないと思うが、評価はどのようにするのか?				
先生は、生徒に対して適切な態度や言葉遣いで接している	85	81	84	83	評価は5段階で評価している。例えば英語ではディスカッションや発表、プレゼンテーションなどの取り組みを通じて評価している。				
生徒会行事に意義を感じる生徒は増えてきている					・マンガ雑誌を取り上げた授業では、この後どのように展開されていくのか興味が沸いた。				
	R1	H30	H29	H28	・6限目であったが、生徒は積極的授業に参加していた。先生の授業準備も大変だろうと感じた。				
文化祭、体育祭、球技大会などの生徒会行事は有意義である	90	91	89	85	<審議事項>				
将来の進路、生き方について十分考える機会が与えられている					学校経営計画(進捗)について				
	R1	H30	H29	H28	確かな学力の育成について				
将来の進路や生き方について考える機会がある	93	94	93	90	Q:ICT機器の整備状況は?				
命の大切さや、社会のルールについて学ぶ機会があるといえる					A:本日、見学してもらった教室は総合学科スタート時に整備された数少ないwi-fi環境のある教室でタブレットが使用できたが、他の教室ではプロジェクターが設置されていない状況である。				
	R1	H30	H29	H28	安全で安心な魅力ある学校づくり				
命の大切さや、社会のルールについて学ぶ機会がある	87	88	86	83	Q:長期に欠席している生徒はいるのか?				
この学校では、十分人権に配慮がなされている					A:いる。ちょっとしたきっかけで学校に来ることができなくなってしまった生徒もいる。				
	R1	H30	H29	H28	Q:スクールカウンセラーは配置されているのか?生徒との面談はあるのか?				
この学校では、十分人権に配慮がなされている	91	90	89	91	A:月1回来校していただいている。生徒と面談してもらおうこともある。				

生徒が教員に対してより相談しやすい環境を作る必要がある  
いじめがないと言い切れない生徒が10%程度いる

	R1	H30	H29	H28
何かあれば、相談できる先生がいる	70	73	69	62
この学校では、教職員が「いじめ」がおこらないように気を配っている	81	75	79	85
この学校では、生徒間の「いじめ」はみられない	90	89	92	91

制度説明が適切になされている

	R1	H30	H29	H28
フィールドや選択科目のガイダンス・指導はわかりやすい	80	84	75	74
この学校は奨学金制度について、紹介や説明がなされえいる	87	93	90	86

第3回 令和2年1月29日 15時15分～16時45分

< 審議事項 >

平成31年度学校教育計画及び学校評価について

- ・学校教育自己診断の評価基準を肯定値ではなく、「あてはまる」の第一評価としたため、すべてが「 」の評価とはならなかったが、ほとんどの項目で数値目標を達成できたといえる。

意見

- ・授業以外の学習時間が少ないのが引き続きの課題である。
- ・漢字検定受験者数が、昨年度に比べて減少しているのはなぜか？

今後検証する予定

令和2年度学校経営計画について

- ・「あてはまる」という第一評価が50%を超えることを目安と考えている。50%を大きく割っている項目については、年に5ポイント上昇することを目標とする。項目によっては「進路や生き方を考える機会がある」など否定的回答率を減らすことを目標に設定することを考えている。

学校教育自己診断について

意見

- ・「学校の制服・遅刻・頭髪指導は適切だと感じている」の数値は高い。
- ・「教え方に工夫している先生が多い」の数値が経年変化で上昇している。
- ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の数値が高い。
- ・「何かあれば、相談できる先生がいる」の否定的回答率は減らす必要がある。

授業アンケートについて

- ・経年変化では緩やかながらも右上がりとなっている。「予習、復習をしている」という数値は他の項目に比べ低い。

意見

- ・生徒が、予習や復習の必要性を理解していない、予習など自主学習のやり方を知らないのではないか？
- ・学びの可視化が必要。予習ノートを評価していくなど。

< 報告事項 >

3学期制を実施しての教員アンケートについて

- ・2学期制から3学期制に変更するにあたって、あらかじめ予想されたメリットとデメリットについてはほぼ想定通りであった。授業内容を精選するなど工夫を進めていきたい。

各学年・分掌から、今年度の活動についての報告

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価							
イ 確かな学力の育成	(1) 新カリキュラムの検討	ア カリキュラム委員会で次期指導要領の内容の研究、新カリキュラムの検討をする。	ア カリキュラム委員会 実施回数 10 回 ア・職員研修 1 回以上 次期指導要領につながるシラバス・授業計画の作成率 90%以上を維持 (H30, 100%)	ア カリキュラム委員会 16 回実施済み( ) ア・職員研修 1 回実施済み( ) 次期指導要領につながるシラバス・授業計画の作成率 (100%、今できることはすべて完了している)( )							
	(2) 各教科を中心とした授業改善	ア・わかりやすい授業を行う。 ・生徒が考える授業を行う。 ・生徒同士、教員とのコミュニケーションを大切にする授業を行う。 ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。	ア 授業アンケート「知識や技能が身に付いた」 第一評価 43%以上 (H30, 38%)  (評価の基準) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>第一評価</td> <td>よくあてはまる</td> </tr> <tr> <td>第二評価</td> <td>ややあてはまる</td> </tr> <tr> <td>第三評価</td> <td>あまりあてはまらない</td> </tr> <tr> <td>第四評価</td> <td>全くあてはまらない</td> </tr> </table>	第一評価	よくあてはまる	第二評価	ややあてはまる	第三評価	あまりあてはまらない	第四評価	全くあてはまらない
第一評価	よくあてはまる										
第二評価	ややあてはまる										
第三評価	あまりあてはまらない										
第四評価	全くあてはまらない										
ウ 生徒のやる気スイッチをオンにする	(3) 主体的、対話的で深い学びをめざす	ア・ICTなどの活用 ・生徒自身の発表の機会を設ける等授業形態の工夫をする  ア 教員相互の授業見学と研修 ・教育実習期間に合わせた教職経験年数が浅い教員による授業見学及び研修の実施  イ 自主的な学習の推進 授業以外の学習時間を前年比 10%以上の増加を図る。  読書習慣を身につける	ア・生徒自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」 第一評価 26% (H30, 21%) 「授業で発表する機会がある」43% (H30, 38%)  ア・教員自己診断「指導方法の改善・工夫が行われている」 第一評価 16% (H30, 11%)  学習時間目標 1 年生 30 分 (H30 29 分) 2 年生 30 分 (H30 26 分)  具体案が出てくるかどうか。	ア・生徒自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」 第一評価 23%( ) コメント：教授法のバリエーションを知る必要がある。  「授業で発表する機会がある」42%( ) コメント：授業形態の改善に一層の工夫が必用である。  ア・教員自己診断「指導方法の改善・工夫が行われている」 第一評価 17%( )  学習時間 (平日) 1 年生 28 分 2 年生 26 分( ) コメント：学校運営協議委員より家庭学習の方法がわからないのではないかという意見があった。より丁寧な指導が必要である 来年度より朝の HR を活用して 1 年生のみ 5 分間の一斉読書を行う( )							
	(1) 効力感、達成感の育成	ア 部活動参加率を上げる。部活動の説明会などを充実させ、全学年の生徒の部活動の加入率を高める。  イ 地域連携 地域の小中学校への出前授業や、他の機関と連携して地域に根差した学校とする。	ア 加入率 70%以上 (H30 66%)  イ 市内小中学校や地域諸機関との連携の継続	ア 加入率 7 月 66%( ) コメント：一度入部して途中で退部する生徒への対応が必要である。  イ 部活、選授業等の 13 団体、生徒延べ 550 人が 35 のイベントに参加 ( ) コメント：多くの教員が地域連携を意識して前向きに取り組んだ結果である。							
(2) キャリア教育の推進	ア 「産業社会と人間」から始まる 3 年間のキャリアプランの作成・2, 3 年生のキャリア教育の充実  イ 生徒が選択を通じて自己実現を図るガイダンス機能を充実する。	ア 自己診断「進路や生き方を考える機会がある」 第一評価 50%以上を維持 (H30, 53%)  イ 自己診断「ガイダンスはわかりやすい」 第一評価 46% (H30, 41%)	ア 自己診断「進路や生き方を考える機会がある」 第一評価 59%( ) コメント：進路意識について早い時期からの取組がなされた結果である。  イ 自己診断「ガイダンスはわかりやすい」 第一評価 39%( ) コメント：よりわかりやすい内容にする必要がある。								

府立門真なみはや高等学校

<p>ウ 生徒のやる気スイッチをオンにする</p>	<p>(3) 進路実現の支援  (4) 資格取得の推進</p>	<p>ア 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限に発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。  ア 生徒が資格取得の意義を理解できるように生徒に積極的な働きかけを行う。</p>	<p>ア 3学年当初の4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率を90%以上にする。  就職内定率100%を維持  ア 受験者数の維持 ・漢字検定受験者数150名(H30 132名) ・英語検定準2級以上(CEFR A2以上)の生徒数50名(H30 45名) ・選択したフィールドに関する資格試験の受験率(パソコン検定など80%以上)</p>	<p>ア 3学年当初の4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率は1月時点で69%( ) コメント:より早くからの意識づけが必要である 就職内定率100%( )  ア 受験者数の維持 ・漢字検定受験者数68名( ) コメント:よりアピールを強める必要がある ・英語検定準2級以上(CEFR A2以上)の生徒数89名( ) コメント:教員からの声掛けが影響した ・選択したフィールドに関する資格試験の受験率(パソコン検定など)100%( ) コメント:3年生全員が自分の属するフィールド内で実施される資格試験はほぼ全員が受験している。</p>
<p>エ 安全で安心な魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成  (2) 課題のある(困り感のある)生徒の支援  (3) 保護者連携・地域連携の一層の推進  (4) 働き方改革</p>	<p>ア 規範意識を持たせる。生徒が指導の目的を理解した上での指導の実践  イ 情報リテラシーの育成。特にSNSの利用について、リテラシーを高める。  ア 軽微なことでも生徒についての情報を共有する情報交換会を継続実施  イ 生徒相談室を充実させるなど相談体制の充実を図る  ア 保護者連携の推進のため、メールの一斉配信など確実な連絡を行う。  イ 災害等非常時に備え、全生徒にメール配信システムを登録させる。  ア 会議でのペーパーレス化を進める。</p>	<p>ア 自己診断「制服・遅刻・頭髪指導は適切である。」第一評価37%(H30,32%) ・自己診断「先生の指導は納得できる」第一評価33%(H30,28%)  イ 生徒向け研修の継続  ア 支援・教育相談委員会を月1回程度開催  イ 自己診断(保護者・生徒向け)での「何かあれば相談できる先生がいる」第一評価を保護者向け31%(H30,26%)、生徒向け39%(H30,34%)  ア 保護者メール配信システムの維持。またそれにより、教員の保護者連絡の負担を一部軽減する。  イ 生徒全員の登録  ア 具体案が出たか</p>	<p>ア 自己診断「制服・遅刻・頭髪指導は適切である。」第一評価37%( ) ・自己診断「先生の指導は納得できる」第一評価34%( )  イ 生徒向け研修実施済( )  ア 支援・教育相談委員会を6回実施済み( ) コメント:今年度から始まった同委員会を軌道に乗せる必要がある。  イ 自己診断(保護者・生徒向け)での「何かあれば相談できる先生がいる」第一評価保護者向け27%、生徒向け33%( ) コメント:教員の日頃からの生徒への声掛けを増やす必要がある。  ア 保護者メール配信システムを維持している。それにより、教員の保護者連絡の負担を一部軽減できた。( )  イ 生徒全員の登録には至っていない( ) コメント:現在57%の登録に留まっている。さらなる呼びかけが必要である。  ア 成績会議などでペーパーレスにより会議を行った( )</p>
<p>オ グローバル人材の育成</p>	<p>(1) 日本語指導の必要な帰国生徒外国人生徒の指導  (2) 国際交流の推進</p>	<p>ア 合格時からの指導の充実  ア 生徒の短期語学研修の充実  イ 外国の学校との相互交流の実施</p>	<p>ア 高校生活が円滑にスタートできるよう合格決定後から早期の支援を継続実施する。  ア 短期語学研修参加者10名程度(H30,12人)  イ 交流受入数1校以上(H30,1校)</p>	<p>ア 高校生活が円滑にスタートできるよう合格決定後から早期の支援を3月末、4月初旬に実施済み( )  ア 短期語学研修19名( ) 7月 フィリピン、サンカルロス大学付属語学学校にて英語研修(16名) 8月 インドネシア、東ジャワ州に派遣(3名) コメント:より多くの生徒が興味を持つようになってきている  イ 交流受入数3校( ) ・6月、中国、山西省の高校より生徒教員30名の訪問があった ・11月、インドネシア、スラバヤ高校より生徒教員20名の訪問があった ・1月、韓国、三聖女子高校より教員2名の訪問があった</p>